

## 編集後記

◇ニューズレターで、事務局から何度もアナウンスしていただいたように、地理学科は1995年度末で事実上、廃止されました。今年の新入生が、3年半後、地理学関連の卒論を書いたとしても「人文学科」の卒業となり、学科OG＝（お茶の水地理学会）会員とは限らなくなります。

◇したがって将来は、今までのような“鉄の”（？）結束が、なくなることが予想されます。そこで学会が存続し、発展するためには、これまで以上に、OGの皆さんの積極的なご参加・ご活動が期待されるわけです。

◇こんな状況の中で、新しい『お茶の水地理』を編集しました。毎回、編集方針は担当委員に一任されているので、（独断で）今回は、省コスト・省エネを方針の第一としました。具体的には、できるだけフロッピー入稿をお願いする、締切は（早めに設定して）厳守していただく、原稿を必要以上に催促することは止める、原稿の集まらないコーナーは休業にする、の4つです（第2点は甘くなってしまいました）。

◇この方針は、近い将来、OGの皆さんに、編集に“本格的・実質的に”関わっていただく第一歩と位置付けています。時間的に余裕がない、しかも繁雑な編集プロセスのため、この号まで地理学科の現教官が必然的かつ全面的に、編集を担当せざるをえませんでした。今後も（少なくとも現在、在職する）教官は、積極的に仕事をするつもりですが、将来、人事異動が重なれば、どうなるかわかりません。ぜひ、ぜひ、OGの皆さんに『お茶の水地理』編集の主導権も握っていただきたいと考えています。

◇などと気弱なことを申して、すいません。ただ、今回の号も、力作揃いだと自負しています。up-to-dateなテーマ、新鮮な問題設定、その実証。ぜひ“ご賞味”下さい。

◇次号も、会員の皆さんの積極的な投稿を、お願いいたします。

(U)